

中土佐町地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和4年度)

中土佐町基礎データ

合併状況:平成18年1月に1町1村が合併
人口:6,106人(令和4年12月現在)
面積:193.21平方キロメートル

中土佐町における主な公共交通概要

○鉄道:JR四国(土讃線)

○バス

(幹線)

①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を
経由する民間事業路線

②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を経由する民間事
業路線

(フィーダー)

・令和4年度地域内フィーダー系統として町内を運行して
いるコミュニティバスは、全7路線

久礼地区では、土佐久礼駅を起点に3路線が運行

大野見地区では、大野見保健福祉センターを起点に3
路線が運行している。

上ノ加江地区では、上ノ加江診療所前を起点に1路線
が運行している。

・フィーダー系統

①萩原・大野線

②楠ノ川線

③長沢・大坂線

④下ル川線

⑤萩中線

⑥高樋線

⑦上ノ加江線

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

中土佐町の公共交通ネットワーク図



協議会の構成員

高知県 中土佐町 町内利用者代表 高知高陵交通(株)
(株)四万十交通 (有)中土佐ハイヤー (社)高知県バス協会
高知運輸支局 須崎警察署

前年度の事業評価における課題

対面以外での意見集約手段を検討し、新たな利用者を生み出す取り組みに努める必要がある。

並行して、新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、未利用者に公共交通に対する意識を深めてもらい、利用してもらえるように、福祉部門や関係団体との協働による利用者のすそ野を広げる取り組みを展開していく必要がある。

定量的な目標・効果

(目標)

- 目標1:コミュニティバスの年間利用者数が、前年度実績を下回らない。
・系統①:6.4人以上、系統②:10.9人以上、系統③:4.9人以上、系統④:
12.5人以上、系統⑤:13.4人以上、系統⑥:5.8人以上、系統⑦:10.2人以上
- 目標2:コミュニティバスと路線バスの町内における年間乗降者数が、
前年度実績を下回らない。
・コミュニティバスおよび路線バス利用者数:43,068人以上
- 目標3:高齢者を対象としたお出かけイベントの定期開催の参加者数を
前年度と比較して5%以上増加させる。
- 目標4:「ICカードですか」を所有する人の数を、前年度と比較して5%
を超えて増加させる。

(効果)

各系統の運行を維持することで、中山間地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。
幹線系統の路線バスと連携することにより、広域的な移動における利便性が向上する。

フィーダー系統図



①、②、③は、土佐久礼駅を起点として、久礼地区中心部は経路を共有して運行。

④、⑤、⑥は、大野見を起点として、萩中～大野見間は経路・ダイヤを共有して運行。

⑦は上ノ加江を起点として運行。

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・平成31年3月に策定した地域公共交通網形成計画の具体的施策に準ずるかたちで利用者が少ない地域で戸別訪問による意見交換を行った。
- ・住民との意見交換により把握した利用者ニーズを共有し対応方法を検討するため、交通各社との調整会議(中土佐町バス路線運行ダイヤ調整会議)を行った。
- ・地域公共交通会議を令和4年6月に開催し、今後のフィーダー系統各路線の維持・再編について協議を行った。
- ・中土佐町地域公共網形成計画に沿って車両利用の利便性向上の検討を行った。

自己評価

事業実施の適切性

- ・町内を運行するバス事業者との調整を経て、乗り換えを意識した路線バス運行ダイヤの改定をおこなった。
- ・一部の地域での地区別意見交換会の開催はできたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公共交通利用者懇談会は昨年度に引き続き実施できなかった。
- ・路線バスのダイヤ改定に合わせ、すべての公共交通を網羅した時刻表冊子の作成を行った。
- ・高齢者の買い物・通院等への移動手段として機能した。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- 目標1(コミュニティバスの年間利用者数が、前年度実績を下回らない)は、路線別には以下の達成状況となった。
- ・系統 ①萩原・大野線、②楠ノ川線、⑤萩中線、⑦上ノ加江線は、目標値に対し95%~102%と利用が安定した状況にある。
 - ・系統 ④下ル川線、⑥高樋線は、目標値に対し100%以上の利用を確保できている。
 - ・系統 ③長沢・大坂線は、目標値に対し△18.4%と利用が減っている。
- ・③長沢・大坂線の1路線を除く6路線は概ね目標を達成している。特に⑥高樋線は利用が無ければ路線を休止することもありえる旨を地域で説明し、利用促進に努めた結果が現れた。依然として利用が伸びない③長沢・大坂線は戸別訪問においては潜在的な利用希望があるため、バス乗り方教室やコミュニティバスの説明会など実際にコミュニティバスに乗る体験会を開催するなど利用促進の取組みを進めていく必要がある。
- 目標2(コミュニティバスと路線バスの町内における年間乗降者数が、前年度実績を下回らない。)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより路線バスの利用者数は低迷しているものの、前年度比6.4%増となり若干改善され目標は達成した。
- 目標3(高齢者を対象としたお出かけイベントの定期開催の参加者数を前年度と比較して5%以上増加させる。)は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施となった。
- 目標4(「ICカードですか」を所有する人の数を、前年度と比較して5%を超えて増加させる。)は、目標値98人に対して、97人(小児用:3人、大人用:83人、65歳以上用:11人)となっており、概ね目標値を達成している。

今後の事業に向けた改善点

新型コロナウイルス感染症の再拡大などにより、利用者懇談会、高齢者を対象としたお出かけイベントなど利用促進につなげる取組みが十分に開催できなかったこと等の理由から、新たな利用者を生み出す取組みが十分には行えなかった。

今後は、地域の移動ニーズを継続的にヒアリングし可能な限りニーズに対応していくとともに高齢者等外出支援路線バス無料化事業(バスパス)のデジタル化などによる利用者の利便性向上に努める。また、対応できないニーズについては利用者に理解してもらえるよう説明を行っていく。

並行して、未利用者に公共交通を知ってもらい、利用してもらえるように、福祉部門や外部団体との協働による利用者のすそ野を広げる取組みを展開していく。

また、令和5年度は現行の公共交通計画(網形成計画)の最終年度となることから、現行計画の総括を行いつつ、次期計画の策定に向けて旅客運送サービス全体の収支率、公的負担額等の在り方を検討し、定量的な目標の設定をおこなっていく。

その他PRポイント

町内を運行するすべての路線バス(コミュニティバスを含む)を網羅した時刻表冊子の作成をおこなった。
バスパスの利便性向上を図るため、デジタル化に向けた検討をおこなった。